◇ 令和5年度事業の実績について

事 業	取組項目	取組概要	実績・取組状況	実施主体	予算規模
防災学習ネットワークに関する情報発信	パンフレットの活用	市内の津波伝承施設やネットワークの取組を紹介するパンフレットを各所に配布し、周知を図る。 庁内関係課と連携し、市内観光イベントや首都圏イベントにおいて、パンフレットの配布など、ネットワーク紹介の機会を設ける。 【主な配布先】 ネットワーク構成施設、市内小・中学校 道の駅さんりく、三陸鉄道盛駅、市外津波伝承施設	令和4年度に作成(10,000部)した大船渡市防災学習ネットワークパンフレットを市内外各所に配布したほか、横浜市で開催された「ぼうさいこくたい2023」において、三陸振興協議会出展ブースに配置するなど、防災学習の取組について、広く周知を図った。 【配布先】※配布数は約4,000部ネットワーク構成施設、市内小・中学校、道の駅さんりく三陸鉄道盛駅、碁石インフォメーションセンター東日本大震災津波伝承館、いのちをつなぐ未来館等 26箇所	·市(防災管理室·企 画調整課)	_
	ホームページ等による 情報発信	市公式HP及びSNS(ツイッター、フェイスブック、ライン)等を活用し、ネットワークに関する情報発信を行う。 ▶ 市公式HPの充実 トップページへのバナー掲載、津波伝承施設等の写真を活用したネットワーク紹介ページの充実のほか、おおふなぽーとHPとリンクするなど、ネットワーク構成団体との連携を図る。 ▶ SNSでの発信 市公式SNSの積極的な活用に当たり、地域おこし協力隊(ICT担当)等と連携し、適時適切な情報発信を行う。	▶ 市公式HPで公開している防災学習ネットワークサイト内の情報を整理・ 更新するとともに、サイトにアクセスしやすいよう、市公式HPのトップページを始め、おおふなぽーと、大船渡市観光物産協会HPへバナー掲載するなど、ホームページの充実を図った。 ▶ 市立博物館では、常設展示「荒れ狂う海 津波」コーナーのリニューアル情報や発災日にあわせ「明治三陸地震津波」「チリ地震津波」に関する情報を発信したほか、防災管理室においては、防災学習ツアー募集をSNSで呼び掛けするなど、適時適切に情報発信を行った。	·市(防災管理室·市 立博物館) ·市観光物産協会	_
防災学習ネットワーク関連施設等の利用促進	小・中学校での活用 促進	市教育委員会と連携し、市内小・中学校に対し、ネットワーク構成施設の概要や取組内容等の情報提供を行う。加えて、児童・生徒が防災学習できる機会を提供できるよう、施設活用モデルプランの提案等を行い、小・中学校の防災教育の取組につなげるとともに、ネットワークの利用促進を図る。また、市教育委員会が実施する教職員新任研修、復興教育副読本の編集作業等への支援を行う。	 ► 震災を経験していない児童・生徒らの防災教育のツールとして、防災学習館を活用いただくよう、11月に市内小・中学校に対し、施設活用の提案を行った。 ト 市教育委員会において、4月に防災学習館を活用した教職員新任研修(7人)を行った。 	·市(防災管理室) ·市教育委員会	_
	モニターツアーの実施	おおふなぽーとを中心に、ネットワーク構成施設等を巡るモニターツアーを実施する。 定員は20~30人程度とし、観光イベントとタイアップするなど、参加者確保に努める。対象者についても、市民向け、市外向けなど、効果的な手法を模索する。 モニターツアーを実施することで、防災学習に関する体験メニューの考案、ガイド育成等につなげる。	令和6年3月に開催する大船渡市観光物産協会主催「おおふなぽーとで防災ウィーク」にあわせ、市観光物産協会と連携・協力し、「防災学習ツ	·市(防災管理室) ·市観光物産協会	_
	防災学習ツアーの実施	三陸鉄道震災学習列車、防災学習館見学をメインメニューとした防災学習 ツアーを実施する。必要に応じて観光的要素も取り込む。 定員は30人程度とし、ツアー参加者は、市HPや市広報紙への掲載、小・ 中学校へのチラシ配布等により公募する。	大船渡市防災学習~まなぼうさい~ツアーを以下のとおり実施。 催行日:8月11日(金・祝) / 参加者数:20人 ツアー内容:防災学習館見学、三陸鉄道震災学習列車 ツアー実施に当たっては、三陸鉄道沿線等利用促進事業を活用。 ※ ツアー実施報告書・参加者アンケートは別紙1のとおり	·市(防災管理室·企 業立地港湾課·財政 課) ·市観光物産協会 ·三陸鉄道㈱	_
	東北復興ツーリズム推進 ネットワークへの参画	7月に、JR東日本が主体となり、自治体や企業、各種団体が参画の下、「東北復興ツーリズム推進ネットワーク」が設立予定である。 防災学習のほか、自然・歴史・文化・食に関するさまざまな観光コンテンツや体験プログラムを組み合わせるなど、旅行会社の知見を加え、東北を周遊するモデルコースを磨き上げ、地域と旅行会社のマッチングによる旅行商品造成の促進や教育旅行の誘致活動などを展開するものである。 当該ネットワークに参画することで、復興ツーリズム推進の契機とする。	7月25日、東北における復興ツーリズムの推進を目的に「東北復興ツーリズム推進ネットワーク」が設立。 当市は、観光交流推進室、防災管理室を担当窓口として参画。 JR東日本、旅行会社、自治体が三位一体となって、それぞれが持つ知見・ノウハウを最大限活かし、東北への教育旅行の誘致等に取り組むものである。内容としては、防災・減災プログラムや自然・伝統文化体験など東北にしかない体験価値を始め、地域とのふれあいによる体験学習といった教育旅行としての必要要素をもったモデルコースの整備や旅行商品の造成に取り組むこととしている。現在、当該推進ネットワークの会議体において、情報の収集・共有に努めている段階。会議は第2回まで開催済みで、次回は令和6年2月29日開催予定。	室•防災管理室)	_

事 業	取組項目	取組概要	実績・取組状況	実施主体	予算規模
震災の記憶や教訓等の記録・保存	大船渡市防災学習 アーカイブスの充実	市内の津波伝承施設や震災遺構、復旧・復興に関する取組等のコンテンツを登録し、アーカイブスの内容の充実を図る。 大船渡市防災学習館、おおふなぽーとにデジタルサイネージを設置。 コンテンツ登録総件数100件を目標とする。(現登録件数:60件)	防災学習館、おおふなぽーとに市内の津波伝承施設や震災遺構、復旧・ 復興に関する取組等のコンテンツを登録したデジタルサイネージを設置。 コンテンツ登録件数は76件。	·市(防災管理室) ·市観光物産協会	895,000円
	3.11伝承ロードへの 登録等 (東北地方整備局の取	市内の津波伝承施設・震災遺構等について、3.11伝承ロードへの登録に向けた詳細検討を行い、所要の環境整備を行う。 (現登録件数:25件) ▶ 大船渡市防災学習館(第2分類)の第3分類への格上げ ビデオ映像上映による展示の整備に係る詳細検討 ▶ おおふなぽーとの第3分類への登録 震災伝承に関する展示物及び案内員の配置、 ビデオ映像上映による展示の整備に係る詳細検討	 ▶ 防災学習館に映像資料展示用機材(モニター・プレーヤー)を11月に設置した。映像資料は市立博物館から東日本大震災の記録映像「荒れ狂う海~津波常習地・大船渡~」を借用。今後、チリ地震津波に関する展示用ビデオテープ(VHS)のDVD化を進める。 ▶ おおふなぽーと内での震災伝承に関する常設展示は、スペース確保に課題があることから、企画展示の実施について市観光物産協会、庁内関係課と検討を進める。 ▶ 現在整備中の「祈りのモニュメント」は第2分類に、防災学習館は第3分類に来年度登録できるよう申請手続きの準備を進める。 ▶ 3.11伝承ロード推進機構と共催で東日本大震災パネル展を実施。期間:11月1日~7日 / 会場:サン・リアショッピングセンター期間:11月8日~14日/ 会場:おおふなぽーと東日本大震災の実情と教訓等を映像やパネルによる紹介した。※ アンケート回答者数39人 	・3.11伝承ロード推進機構 ・市(防災管理室・土地利用課) ・市観光物産協会	【備品購入】 86,000円
		震災の記憶や教訓等を風化させることのないよう、市内小・中学校や高校、各種団体等が行う津波伝承や防災・減災学習の取組に対し、要請等に応じて情報提供や講師派遣など必要な支援を行う。	市内小・中学各校では、津波等を想定した避難訓練はもとより、特色ある復興教育及び防災教育をそれぞれ実施している。 ※ 実施内容は別紙2のとおり 市内小学校、高校及び団体からの依頼により防災学習(防災管理室対応)を行った。 ▶ 10月6日、大船渡東高校1年生78人を対象に座学、10月11日、機械電気科1年生20人を対象に実技(プライベートテント、段ボールベッド設営)を実施。 ▶ 11月27日、赤崎小学校4年生16人を対象に座学と実技(防災倉庫見学)を実施。 ▶ 12月9日、国際交流協会主催「にほんご交流カフェ」において、市内等外国人20人を対象に座学と実技(津波避難の仕方)を実施。	•市内小中学校	
その他	ゲートウェイ(おおふな ぽーと)の役割	を整理し、都度見直しながら、来訪者の津波伝承施設等を含めた観光地回遊等のニーズに的確に対応する。	コーディネート業務として、教育旅行誘致に向けた旅行会社との商談(東京、大阪、函館、札幌)、視察を含めた教育旅行の受け入れ(市外小・中学、高校7校9回)に対応した。 コーディネート業務の遂行には、専任スタッフの配置、所要の予算の確保といった課題があることから、市及び市観光物産協会の既存事業でできる限りの対応をしながら、より良い方法を模索する。 今後、ゲートウェイ機能の充実、防災学習ネットワーク事業の推進を図るため、観光施策との一体的な事業展開やキャッセン大船渡など防災学習	·市(防災管理室) ·市観光物産協会	
	大船渡市防災学習館の 運営	漁村センター指定管理者である赤崎地区振興協議会に以下の業務を委託し、防災学習館の管理・運営を行う。(利用者目標:500人) ▶ 管理運営業務 防災学習館の予約受付、清掃、照明器具や展示機器の管理、消耗品等の補充などを行う。 ▶ 館内ガイド業務 来館者に対して、震災の経験や教訓、自然災害の備えなどについて伝え、防災・減災に関する知識の普及と意識の啓発を図るため、来館者の案内、展示物等の説明を行う。	を行った。(令和5年度利用実績 142人)※12月末現在 管理運営業務 防災学習館の予約受付、館内・施設周辺の清掃、照明器具や展示機器の管理、消耗品等の補充を行った。 館内ガイド業務 来館者に対して、震災の経験や教訓、自然災害の備えなどについて伝	·赤崎地区振興協議 会	【管理運営業務】 384,000円 【館内ガイド業務】 36,000円
	協議会の開催	事業計画案、事業実績報告等について協議する。 第1回会議を5月、第2回会議を11月に開催予定。	▶ 令和5年5月17日 第1回会議開催 令和4年度事業実績、令和5年度事業計画案を協議。▶ 令和6年2月1日 第2回会議開催予定。 令和5年度事業実績の協議、「祈りのモニュメント」整備状況の報告。	-市(防災管理室)	【委員謝金·旅費】 30,000円